

甲斐と萬葉集(四)

— 春日翼について —

Kai and Man'yōshū (4) : On KASUGA Tasuku

鈴木武晴

SUZUKI Takeharu

一 序

甲斐の国(山梨県)は、たたなづく山々に囲まれ、春には萬葉集の越中秀吟のように、桃や李の花が紅白に大地を彩る。秋には山々が黄や紅の美しい垣となる。甲斐の風土は萬葉的風土と言えよう。その風土の中で、文化も豊かに花開いて今に至っているのである。

廣瀬本萬葉集、藤原定家が源実朝に献上した定家本萬葉集の系譜に立つ廣瀬本萬葉集も、甲斐の国の春日昌預という人物を書写統括責任者とする複数の人々によって形成された華であった。その廣瀬本萬葉集の底本は、春日昌預の父春日翼が所蔵していて、その書写を子の昌預に要請したものと推定される。そして、昌預が書写チームを組んで、書写を成し遂げたものと考えられる(拙稿「甲斐と萬葉集(一)・(二)・(三)」、都留文科大学研究紀要第57・58・59

集、二〇〇二年十月・二〇〇三年三月・同十一月)。

廣瀬本萬葉集は、春日翼なくしては生まれることはなかったと言える。そこで、本小稿では、春日翼についての基本的事柄を押さえつつ、春日翼と廣瀬本萬葉集とのかかわりの前提について考察したいと思う。

二 春日翼の経歴

まず、春日翼の経歴について確認しておきたい。左に掲げるのは、そのことについての記述の見られる書物である。

1. 野田成方『裏見寒話』、江戸宝暦二年刊、本小稿では甲斐叢書六卷(昭和四十九年十一月発行、第一書房)に拠る。

2. 廣瀬和育・廣瀬廣一『山縣大貳先生事蹟考 全』(昭和六年十月十五日発行、朗月堂書店)
3. 系賀國次郎『加賀美櫻塙より山縣大貳へ』(昭和十一年五月十五日発行、成美堂書店)
4. 飯塚重威『山縣大貳正傳』(昭和十八年十一月二十日発行、三井出版商会)
5. 赤岡重樹『甲斐郷土年表便覧』(昭和二十六年八月十五日発行、又新社)
6. 『山梨百科事典』(一九七二年六月十日発行、山梨日日新聞社)
7. 飯田文弥・秋山敬・笹本正治・齋藤康彦『山梨県の歴史』(一九九九年一月二十五日発行、山川出版社)

以上の書物に見られる春日翼の経歴についての記述を参照し、稿者の補足も入れて、項目ごとにとまとめれば、次のようになる。

- ・生 年 一七二五年(正徳五年)二月二十日
- ・出生地 甲府
- ・名 前 (姓) 加藤家の先祖の姓が「春日」であったところから「春日」を用いることもあった。

(名) 翼、(字) 函南、(号) 竹亭
(通称) 平八郎、平八

- ・家 富裕な商家(若松屋)。呉服・薬種・香具などを扱う。文人墨客が常に門に充つる状況であったという。
- ・学 問 (師) 初め五味釜川に就き、後に加賀美櫻塙(光章)を師友とする。

・没 年

〈交流〉釜川・櫻塙に学んだ山県大貳とは同門の徒として親交があった。一七六二年(宝暦十二年)に大貳が撰文した酒折宮の祠碑は、春日翼の揮毫したもの。〈書道〉翼は書道に秀でた人物で、壮年のころ京に上つて、持明院流の書道の奥義をきわめた。また、晋の二王(王羲之・王献之父子)の書風をも愛し、その筆跡・法帖を収集模写して『晋代草府』七巻を編んだ。先掲『裏見寒話』の「筆道」の項にも、若松屋平八(春日翼)の名が挙げられている。〈教育〉翼は最も和歌を好み、晩年は閑居して子弟を教えた。及門の徒はなほ多かったという。〈蔵書〉和漢の古書を収蔵。「高白斎記」は貴重な武田史料として知られている。

一七九〇年(寛政二)六月四日。「聞く者悼惜せざるはなかつたと云ふ」(系賀氏上掲書)。上書には、甲府の瑞泉寺境内の墓碑銘に刻まれた、長子昌融の選文による父翼の事績を称揚する次のような文を載せている。

嗚呼先君 稟質純良 爲之不厭 日就月將
天縱篤学 教督有力 世稱神毫 妙絶孰望
展祭考妣 吉蠲孝豪 獲物必奠 不奠不嘗
遐效邠鄉 豫爲壽藏 生乎有譽 終焉允藏

三 春日翼と持明院流書道

先に触れたように、春日翼が壮年のころ上京し、持明院書道の相伝を受けたことが知られている。このことは、春日翼と廣瀬本萬葉集との関わりを考察する上で、きわめて重要なことだと思ふ。そのことを具述する前に、持明院流書道とはどのような流派なのか、先学の研究知見（藤原鶴来『和漢書道史』、一九二七年十一月十五日発行、二玄社）に拠って押さえておこう。

行成の書風を世尊寺流という。この流はおよそ和様諸派の根元といつてよい。（中略）

世尊寺流は平安末期から鎌倉初期にかけてよく行なわれ、かつ朝廷公事の書師をも綿々世襲している。（中略）享祿五年、十七代行季の薨によつてあたら名門の流を絶つに至つた。後奈良天皇は深くこれを惜しみ給ひ、十六代行高から相伝を受けた藤原基春に勅諭してその後を継がしめた。この基春は後に持明院流を創めた（中略）。持明院とはその祖基頼の建てた寺号による。以後、相継ぎ朝廷公事の書博士の家となつた。

藤原鶴来上掲書には、持明院流の系譜も示されてある。注目すべきは、その系譜に賀茂真淵とその門人の橘千蔭の名が見えることである。

奥山錦洞『日本書道史』（昭和十六年十二月五日発行、清教社）の第六章四八「加茂真淵」の項には、

假字は持明院家の門に入つて、上代の風致をうかゞひ、其の奥旨を得たといふ。

とある。また、橘千蔭については、藤原鶴来上掲書にも記述があるけれども、奥山錦洞上掲書の詳述に拠つて見ておこう。

千蔭書は松花堂を慕つてその妙を極め、また入木道の伝授をも受け遂に一流を出し、千蔭流とて世にもはやされた。而して草書は晋唐の諸家を学んで妙境に達し、特に假名はその最も長ずる所にして人争うて之を珍とした。或時岡野守墨といふ人、千蔭の親友を介して、千蔭に小倉百人一首の染筆を乞ひ、之を梓に上して後世に伝へたいと申込んで来た。千蔭はいと易いことであるとてその要求を容れ、小倉の百首よりも新百人一首の方が面白いからとあつて、やがて入木道伝授の書法を以て見事に書き上げてやつた。当時知人の一部からは大切にすべき秘伝を猥りにするといつて批難を受けたが、千蔭は微笑して自分は物を秘することは嫌ひであるといつて取り合はなかつた。以てその人となり推測することが出来る。

とエピソードを伝えている。文中の「入木道」とは、伝統を襲う所の筆道のこと、具体的には千蔭が相伝を受けた持明院流をいう。また、『新百人一首』のことが見えるが、本稿者所蔵の明治二十七年四月・博文館発行の『新百人一首』によつて千蔭の書風を確認することができる。

廣瀬本萬葉集には、賀茂真淵『萬葉考』や橘千蔭『萬葉集略解』

による書き込みが多数見られる（『校本萬葉集』）。廣瀬本萬葉集の底本を所蔵し、その書写を春日昌預に指示したと覚しい春日翼が、賀茂真淵や橘千蔭と同様、持明院流書道の相伝をうけていたことは、偶然ではあるまい。千蔭が晋唐の諸家の草書を学んだこと、翼が晋の王羲之・王獻之の書風を愛して『晋代草府』七巻を編んだことも規を一にしていると見えよう。してみると、春日翼は賀茂真淵や橘千蔭に敬意をもって同じ持明院流の書の道に入ったと考えられる。かような翼の心を廣瀬本萬葉集の書写者たちは汲み取っていたであろう。それゆえ、廣瀬本萬葉集に真淵の『萬葉考』や千蔭の『萬葉集略解』に拠る書き入れが敬意をもって行なわれたものと思われる。

四 春日翼と酒折宮祠碑

先に春日翼と山縣大式とに親交があり、大式が選文、翼が書を担当し、協力して酒折宮の寿詞の石碑を立ち上げたことについて触れた。

酒折宮は言うまでもなく、『古事記』の景行天皇条の倭建譚に登場する甲斐の神社である。その神社境内の石碑に刻みこまれた春日翼の書による山縣大式の選文を掲げれば、次のとおり。

酒

日本武尊既平東夷還次甲斐國酒折宮此為
其舊址有祠享祀不解者千六百有餘年于今
矣昌貞等不勝景仰之至樹石廟庭謹為之銘

折

鳴嘯 尊之靈德千載之下八埏之外靡不被

祠

碑

其化焉若夫底績之著則史籍歷然此不復序
銘曰 維神開國皇舉其綱要荒未服逞其強
梁偉哉 帝子是民之望爰提神劍經營四方
梟師授首蝦夷來王威德所及莫不披攘愷旋
作詠新墾之章鏗鏘遺響千載流芳允文允武
盛化洋洋縣縣洪趾寰宇以康

寶曆十二年壬午夏四月

山縣昌貞謹撰

加藤 翼拜書

寶曆十二年は西曆一七六二年。山縣大式三十八歳、加藤翼四十八歳の時のことであつた。

この石碑は、倭建命が西に熊曾、東に蝦夷を征討して、帰路この甲斐の国の酒折宮で「新治筑波を過ぎて幾夜か寝つる」の歌を詠んだことを踏まえて、文武両道に秀れた倭建命を称揚したものである。

山縣大式は尊王論者で、その思想と無縁に春日翼の書が存したのとは思われない。この書はむしろ翼が大式の尊王思想に共鳴したことを物語っている。飯塚重威先掲書には、春日翼について、「彼自身も書道修業のため京都に上り持明院中將の教へを受けた程の人物であり、従つて尊皇の感慨に厚かつたであらうことは想像に難くない。」と述べている。首肯すべき見解である。

五 結

以上、廣瀬本萬葉集の底本所蔵者と覚しき春日翼について、その

経歴を踏まえつつ持明院流書道・酒折宮建碑の二点に絞って小考を述べてきた。持明院流書道を通しては、賀茂真淵・橘千蔭との関連がクローズアップされ、山縣大弐との酒折宮建碑の考察によれば、翼が上代の歌の世界に関心を持ち、こののち、その知見をいっそう深めていったであろうことがおのずと推知される。こうして、春日翼が廣瀬本萬葉集を所蔵して、その書写を子の昌預に命じるに至る前提は、十分に整っていたと言える。

では、春日翼は廣瀬本萬葉集の底本をどのように入手したのか。継起して浮上するその問題については、別稿において考察したいと思う。

二〇〇五年〈平成十七年〉五月十五日